

# 第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

東京農工大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構



## (I) 教育に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### ① 教育の成果に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「多様な入学生に対応した導入教育を実施する」及び「整合教育カリキュラムを実施する」について、体験型基礎教育の“SEED”モデルを開発し、特色ある大学教育支援プログラムに採択されているほか、専門能力の育成のためカリキュラムの改革を行い、その結果、大学院生の学会発表数が増加するなど、研究成果の増大につながっていることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期目標「高度の専門性を身に着けた創造性、国際性豊かな人材を育成する」について、特色ある大学教育支援プログラム等応募型事業の指定を受けたこと、また、工学部に設置した「ものづくり創造工学センター」により、ものづくりマインドを醸成する教育を実施していることは、特色ある取組であると判断される。

## ② 教育内容等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8 項目）のうち、4 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「少人数、対話型、学生参加型の授業形態の充実を図る」、「各分野における高度な専門知識を習得させ」及び「設備の充実」について、e-learning や遠隔授業システムの環境を整備し、また、少人数等の授業形態の充実を行い、特色ある大学教育支援プログラム及び大学院教育改革支援プログラムに採択されるなどの成果が見られることは、優れていると判断される。

## ③ 教育の実施体制等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「社会の動向や学問の発達を先取りし、大学院の専攻の拡充・増設を行う」、「学生の自発的な学習活動を補助するための施設・設備を整備する」及び「公開授業、講義方法の研修・検討会等を拡充する」について、時代の動向を見据えた大学院専攻の拡充・増設を図るとともに、教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備を実施し、また、大学教育センターの授業評価等、教育方法の改善に

努め、教育の質の向上につながっていることは、優れていると判断される。

#### (特色ある点)

- 中期計画「教育改善のため、公開授業、講義方法の研修・検討会等を拡充する」について、教育褒賞制度 (BT 賞)、授業公開等、ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動を意欲的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

#### ④ 学生への支援に関する目標

##### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (1 項目) が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「入学料・授業料免除や奨学援助制度を見直し、独自奨学金制度を検討する」、「課外活動、ボランティア活動の活性化を図るための方策を検討し、実施する」及び「留学生、社会人を含む学生の幅広いキャリアサポートを実施する」について、課外活動やボランティア活動に対して学生表彰制度に基づき支援を行い、また、多様な学生に対してキャリアサポートを行うほか、独自の奨学金制度の実施、学生活動支援センターの設立、キャリアパス支援事業の実施等、支援業務を積極的に取り組んでいることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画「『学生センター』を設置し、学生への学習面、健康面、生活・経済面、就職面における支援を強化する」について、学生サポートセンターを府中と小金井の両キャンパスに設置し、図書館の自主学習環境の整備等、学生に対する支援業務を積極的に行ったことは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「府中・小金井キャンパスに「学生センター」を設置し、学生への学習面、健康面、生活・経済面、就職面における支援を強化する」について、平成 20 年度にアグロイノベーション高度人材養成センターを設置し、全国の大学院博士課程の学生、若手研究者等を支援対象者として研修機会等を付与するなど、「アグロイノベーション人材」を輩出する事業を実施していることは、特色ある取組であると判断される。

## (Ⅱ) 研究に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### ① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「農学と工学並びに融合領域を機軸として俯瞰的な視野から総合的な科学技術の研究に取り組む」及び中期目標「研究で得た成果を人類共通の財産として広く社会に還元する」について、大学として重点的に取り組む分野を農学と工学及び融合領域とし、「COE ナノ未来材料」分野での拠点事業の継続等を行い、また、多様かつ積極的な産学官連携事業の展開や地域インキュベーター事業の推進により、研究成果の社会的還元に取り組んでいることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画「産学連携及び国・地方自治体等との連携を拡大する」について、産官学連携・知的財産センターを中心に積極的な産学連携事業を意欲的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

## ② 研究実施体制等の整備に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7 項目）のうち、3 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

### ＜特記すべき点＞

#### （優れた点）

- 中期計画「研究部門・研究拠点の枠を超えた研究実施体制を整備し」、「外部資金等を活用して若手研究者を雇用し」及び「研究支援者の配置については、支援が効率的に行われるように事務職員等を配置するほか、各種の人材配置制度を積極的に活用するとともに弾力的に運用し、支援を充実する」について、東京農工大学を若手人材育成の拠点と位置付け、国際公募による若手研究者の確保、女性研究者の支援を図っているほか、産官学連携・知的財産センターを整備したことは、人的資金的支援等に積極的に取り組んでいるという点で、優れていると判断される。

#### （特色ある点）

- 中期計画「研究部門・研究拠点の枠を超えた研究実施体制を整備し」について、分野にとらわれない融合領域の研究を推進するために、部門を越えて研究を行うことができる「拠点」を設置し、必要に応じて機動的・流動的に教員を配置できる研究体制作りに向けて組織の見直しを図ったことは、特色ある取組であると判断される。

## （Ⅲ）その他の目標

### （1）社会との連携、国際交流等に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

### 【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

## 2. 各中期目標の達成状況

### ① 社会との連携、国際交流等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11 項目）のうち、2 項目が「非常に優れている」、5 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「非常に優れている」、5 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「公募型競争的資金への積極的な応募を奨励する」及び「総合的学際的な共同研究や複数企業・国・自治体との研究連携等に積極的に取り組む」について、公募型競争的資金への積極的な応募を行い、各種の事業奨励費を確保し、積極的な産官学の連携事業を推進しており、特に、企業や自治体との研究連携に取り組み、インキュベーター事業の充実を図っていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「姉妹校の拡充整備により、主要地区特にアジア地域における教育研究活動の拠点形成を行う」について、アジアにおける国際人材育成に係る基礎を構築するため、アフガニスタン・カブール大学に対する復興支援を継続的かつ重点的に実施し、「カブール大学復興支援室」が中心となって行ったアフガニスタン復興支援事業は、東京農工大学の目的に沿った「使命志向型の取組」として、国立大学法人評価委員会から評価されており、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画「国際交流推進センター（仮称）を設け、留学・派遣に関する情報提供や学生に対する語学教育等及び学術交流の支援業務を強化する」及び「全学の国際交流を推進するために、関連する事務組織は国際交流推進センターのもとで一元化を図る」について、産官学連携・知的財産センター、国際センター等を設置して、国内外における産学連携の推進を意欲的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

### ② 産業資料の収集・保管・調査研究・展示による社会サービスの拡充と本学にお

## ける教育研究活動の質の向上に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「産業資料の収集・保管・調査研究・展示による社会サービスの拡充と本学における教育研究活動の質の向上に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。  
平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」であることから判断した。

### <特記すべき点>

#### (優れた点)

- 中期目標「大学附属博物館を設置し、教育面における社会サービスと本学における教育研究の質を向上する」について、附属博物館の設立を視野に入れ、従来の繊維博物館における展示等の諸活動を行い、また、科学技術展を開催するなど、大学所有の学術的価値のある資料を多く保存・展示し、社会に発信していることは、優れていると判断される。